

●現代への疑問と不満を抱き、矛盾の解決をめざす人びとへ——ここHOWSで、真実の思考を追究しよう！

2013年度前期 特別講座

4月27日(土) 午後1時～  
沖縄の基地強化を許さない

——「主権回復の日」政府記念式典と沖縄の怒り  
講師＝目取真 俊（作家）

2013年度前期 開講講座

5月11日(土) 午後1時～  
「北朝鮮脅威論」の虚構をただす

——緊迫する朝鮮半島情勢のなかでわたしたちがなすべきこと  
講師＝浅井基文（国際問題研究者）

1、安倍壊憲内閣と闘うために

日本国憲法は制定されて以来、最大の危機に直面している。壊憲勢力はこれまでの解釈改憲を踏み越え、96条改憲、さらには前文をはじめとして、憲法擁護義務を国民に課すなど、現憲法と正反対のベクトルを明文化する意思をあらわにしている。かれらの企みを見抜き、広範な協働・協力による統一した壊憲阻止の行動をしていくために、労働組合、市民運動で活動しているみなさんの講座への参加を呼びかけます。

- ① 5月18日(土) 憲法96条「改正」の本質を暴露する  
——96条は世界的にみて厳しすぎるか？  
講師＝井口秀作（愛媛大学教授）
- ② 6月1日(土) 早期に憲法改憲をめざす安倍内閣と私たちの課題  
——天皇・天皇制問題を中心に考える  
講師＝西川重則（平和遺族会全国連絡会代表）
- ③ 6月5日(水) 自民党「日本国憲法改正草案」批判  
——歴史認識の欠如した改憲はアジアの緊張を激化させる  
講師＝内田雅敏（弁護士）
- ④ 6月18日(火) 壊憲NO！96条改憲反対6・18 1000人集会  
講演＝奥平康弘（東京大学名誉教授）(HOWSも実行委に参加)  
——96条改正は憲法の死刑宣告だ

いま  
2、メディアファシズムの現在

政権交代から3年、大手メディアは日米同盟の危機を煽り、小沢攻撃を続けて安倍・超反動政権復活に手を貸した。辺野古基地建設、TPP参加、原発再稼働へと動く安倍政権は秘密保全法などで「警察国家」作りを進めつつ、参院選前から、壊憲に突き進んでいる。こうした政治状況にメディアが果たす役割を検証し、ジャーナリズム復権の道を探る。

- ① 5月22日(水) 翼賛化が進む大手メディア  
——総選挙、アベノミクスから原発再稼働、壊憲へ  
講師＝山口正紀（ジャーナリスト）
- ② 7月24日(水) 自民党改憲路線と悪法カルテットを阻止しよう  
——共謀罪、秘密保全法、国家安全保障基本法、国民総背番号法  
講師＝海渡雄一（弁護士）
- ③ 8月31日(土) 新聞労働の現場から見た日本とメディアの今  
——新旧・新聞労連委員長対談  
対談＝日比野敏陽（新聞労連委員長・京都新聞記者）  
東海林 智（新聞労連前委員長・毎日新聞記者）  
進行＝山口正紀（ジャーナリスト）

3、労働運動再生の道を探る

「アベノミクス効果」による円安・株高は富める者をますます富ませ、働く者は置いてけぼりで足蹴にされるだけだ。職場生産点での闘い抜きにこの現状は変えられない。政府・資本の攻撃の狙いを見据え、労働現場での闘いから学ぶことを通じて、階級的労働運動の再生の道を目指そう。

- ① 5月29日(水) どこまで進む労働法制改憲  
——労働者保護から労働移動支援法制へ  
講師＝沢木 勇（労働政策研究）／進行＝新田 進（国際労働運動研究）
- ② 7月3日(水) 大学の非常勤講師組合の取り組み  
——早稲田大学刑事告発と労働契約法改正の問題点  
報告＝松村比奈子（首都圏大学非常勤講師組合委員長）
- ③ 7月6日(土) 24年間の国鉄闘争を次の闘いにどう活かすか  
——新刊『国鉄闘争の成果と教訓』を手掛かりに  
報告＝唐沢武臣（国労高崎地本書記長）  
新田 進（国際労働運動研究）
- ④ 9月25日(水) 郵政職場からの報告  
——現場の運動体づくりの途上にて  
「宅配統合」による意図的大赤字づくりから3年。人不足、労災、正・非格差…さす職場へ郵政当局の次なる一手は「新人事制度」。これらを現場から押し返す運動の、思想と実践をつむぐ試行錯誤から。  
報告＝土田宏樹（JP労組）／丸山こじり（郵政有期雇用労働者）  
他交渉中

4、いま、青年労働者に何が必要か

就職難、低賃金、長時間労働、不安定雇用、失業。多くの青年が「使い捨て労働力」同然に扱われる一方で、大企業は高収益をあげている。このシリーズでは、私たち青年に苦境を強いる社会構造を解き明かし、この状況を突破するために何をなすべきかについて理論と実践の両面から考え、現場での闘いに活かすための方策と展望を見出したい。

- ① 7月20日(土) 青年の貧困と失業はなぜ広がるのか（その2）  
——『資本論』を手掛かりに  
講師＝鎌倉孝夫（埼玉大学名誉教授）
- ② 9月14日(土) 職場闘争の現実と運動の方向性を議論する  
——若手労働運動活動家の報告と討論  
報告＝須田光照（東京東部労組書記長）／内田 浩（出版労連書記次長）／藤原 晃（神奈川高教組）

5、世界の階級闘争

——後退戦の中の成果と課題

資本主義世界は未曾有の危機に遭遇している。にもかかわらず支配階級は、反帝勢力の掃と労働運動の破壊をとおして、その立場をかえって強化しつつある。世界の社会主義、反帝・反独占勢力は22年前のソ連崩壊で受けた痛手からいまだに立ち直ることができていない。世界情勢の推移を俯瞰し主体形成の課題を考察する。

- ① 6月8日(土) 朝鮮の真実を知ろう！  
——『朝鮮新報』平壤支局長が語る朝鮮半島情勢  
講師＝金 志 永（『朝鮮新報』副局長／平壤支局長）
- ② 6月12日(水) 中南米の左翼運動と日本での課題  
——メディアのウソを見抜く視点  
講師＝富山栄子（国際交流平和フォーラム）
- ③ 6月29日(土) 『ダクニ 2013年 キリシャ PAME（全ギリシャ闘争的労働者戦線）』（少川野シネクラブ制作・2013年）上映と討論  
報告＝新田 進（本作品制作者）
- ④ 8月3日(土) 資本主義打倒を展望し、闘うギリシャの労働者階級  
——2013年1月訪問団の報告(画像を使って) <夏季セミナー>
- ⑤ 8月28日(水) 中国「社会主義」の2つの見方  
——資本主義支配からの脱出路を求めて  
講師＝山下勇男（社会主義理論研究）

6、だれのための復興政策か

原発事故から2年を経過しても、住民、農民、漁民のための復興は進まず、瓦礫利権と除染利権に群がるゼネコンを儲けさせるためだけの予算措置が行なわれている。TPPの実験場としての復興特別区域が設けられ、資本家階級のための規制緩和や税制優遇が行なわれている。資本家階級のやりたい放題に対し、わたしたちはどう抵抗し、闘っていくかを互いに確認し前進しよう。

- ① 5月25日(土) 住民の避難と放射性物質の隔離を柱とした復興計画を  
講師＝熊本一規（明治学院大学教授）
- ② 8月4日(日) 『教えられなかった戦争・第二の侵略 — 開発・投資・派兵— フィリピン』（監督：高岩 仁 2002年・80分）上映と討論 <夏季セミナー>
- ③ 8月4日(日) 鶴匠はだれか？  
——「ミンダナオ化」に向かう震災復興（その3）  
講師＝金野正晴（自営業） <夏季セミナー>
- ④ 9月21日(土) 福島第一原発事故から2年半  
——避難生活者の現状と真実の声をさく  
講師＝國分富夫（東日本大震災で被災、南相馬からの原発避難者）

7、日本の短編小説を読む

——特集：目取真俊を読む

講師＝立野正裕（明治大学教授・英文学）  
今期は目取真俊の文学を集中的に読むことにしよう。沖縄戦の実相と戦後から現在にいたる沖縄の現実を考えることは、日本の戦争の本質と戦後の日本の現在にいたる姿を考えることにほかならない。しかし、戦争の経験を持たない戦後世代が戦争の経験をどのように継承してゆることができるのか。それを目取真俊の文学は一貫して追求している。初期からの作品を読みながら、われわれもわれわれの問題として「沖縄」を考える契機にしたい。（講座は、毎回火曜日の午後7時～9時30分）

- ① 5月14日(火) 『平和通りと名付けられた街を歩いて』（影書房）
- ② 6月25日(火) 『魚群記』（影書房）
- ③ 7月16日(火) 『魂込め（まぶいぐみ）』（朝日新聞社）
- ④ 9月17日(火) 『水滴』（文春文庫）

8、HOWS文化講座

今期は映像2編を上映。ひとつは、第二次世界大戦のさなか亡命先で切りとった報道写真に4行詩をつけたブレヒトの『戦争案内』。戦火はやんだがファシズムの母胎はまだ生きているのだという問いかけに、きみはどう向き合う？ 2作目は社会主義チリという偉大な実験であった「チリ人民連合」のたたかいの意義を捉え、それを圧殺した反革命を告発する「サンチャゴに雨が降る」を観て考える。

- ① 7月13日(土) B・ブレヒトの仕事から学ぶ  
——戦争とファシズムの時代に抗して『戦争案内』の上映と討論  
講師＝秋葉裕一（早稲田大学教授・ブレヒト研究者）

◎HOWS付属ゼミナール

HOWS本科生と聴講生は、有志参加による下記ゼミナールに参加できます。参加費は各ゼミ毎に別途お支払いください。

- ① 戦後文学ゼミ  
チューター＝山口直孝、松岡慶一  
2000年より武井昭夫、湯地朝雄をチューターとしてはじまった戦後文学ゼミは、戦後文学を運動論の視点から捉えて検討し、文学運動の今日における再生を探ろうとする研究会です。これまで、宮本百合子、中野重治、佐多稲子、花田清輝、大西巨人、武井昭夫の仕事を取り上げたほか、戦後の文学運動の歩みを確認してきました。
- ② 群読ゼミ  
世話役＝小松淳子  
台本づくりから朗読まで、参加者全員による共同制作を行ないます。この作業を通じて参加者がそれぞれに歴史について、また時代状況について学習をすすめる運動です。
  - これまでの制作・作品は、次のものがあります。
  - 1) いま、私たちの労働現場から——グローバル化と闘う世界の女性労働者との連帯
  - 2) 私たちの戦争案内——急速に進行する戦争体制づくりに抗して
  - 3) 戦争を止めよう！——あなたも・日常から・世界の女性と共に
  - 4) 戦争を止めよう！ II
  - 5) いま、私たちの労働現場から II
  - 6) 私たちはどういう社会をつくりたいのか——憲法改憲は誰のため？
  - 7) 憲法改憲反対！ 忘れるな 戦争責任と不戦の誓い
  - 8) 共闘こそ力！——壊憲を許すな
  - 9) 先に起つのは君だ——戦争・失業・貧困をなくそう
  - 10) 憲法と原発——目を覚ませ！ 未来の世代のために
  - 11) 不安だらけの未来はいらない
  - 12) 利益優先の社会はいらない——闘おう！ 未来のために
  - 13) さし迫る壊憲の危機——知らなかったではすまされません

- ② 9月7日(土) “社会主義チリ”への偉大な実験「チリ人民連合」  
——その政治と文化のたたかい

映画『サンチャゴに雨が降る』（1975年フランス・ブルガリア合作、監督：エルビオ・ソト）／You Tube「アジェンデ最後の演説」（7分）上映と討論  
講師＝井野茂雄（文化活動家）

9、この人に聞く

- ① 7月10日(水) 「アベノミクス」と日銀政策  
——破滅的経済愚策の行方  
講師＝松沢 弘（反リストラ産経労組委員長）
- ② 8月4日(日) 偏見を捨て、ありのままの朝鮮を見よ！ <夏季セミナー>  
——『三千里の山河』（三一書房）を発刊して  
講師＝李 東 埼（ジャーナリスト）
- ③ 8月21日(水) 沖縄・辺野古、基地建設を巡る現段階  
——米軍・自衛隊・改憲（取材した写真を使って報告）  
講師＝山本英夫（フォトグラファー）
- ④ 9月28日(土) 安倍政権の差別と排外の思想  
——日本軍「慰安婦」問題を中心に  
講師＝中原道子（VAWW-RAC共同代表）

HOWS講座カレンダー 2013年度前期（4月～9月）

|          |   |
|----------|---|
| 4月27日(土) | 沖縄の基地強化を許さない——「主権回復の日」政府記念式典と沖縄の怒り<br>講師＝目取真俊（作家）   |
| 5月11日(土) | 「北朝鮮脅威論」の虚構をただす——緊迫する朝鮮半島情勢のなかでわたしたちがなすべきこと<br>報告＝浅井基文（国際問題研究者）   |
| 5月14日(火) | 日本の短編小説を読む 目取真俊を読む「平和通りと名付けられた街を歩いて」<br>講師＝立野正裕（明治大学教授・英文学）   |
| 5月18日(土) | 憲法96条「改正」の本質を暴露する——96条は世界的にみて厳しすぎるか？<br>講師＝井口秀作（愛媛大学教授）   |
| 5月22日(水) | 翼賛化が進む大手メディア——総選挙、アベノミクスから原発再稼働、壊憲へ<br>講師＝山口正紀（ジャーナリスト）   |
| 5月25日(土) | 住民の避難と放射性物質の隔離を柱とした復興計画を<br>講師＝熊本一規（明治学院大学教授）   |
| 5月29日(水) | どこまで進む労働法制改憲——労働者保護から労働移動支援法制へ<br>講師＝沢木 勇（労働政策研究）   |
| 6月1日(土)  | 早期に憲法改憲をめざす安倍内閣と私たちの課題——天皇・天皇制問題を中心に考える<br>講師＝西川重則（平和遺族会全国連絡会代表）  |
| 6月5日(水)  | 自民党「日本国憲法改正草案」批判——歴史認識の欠如した改憲はアジアの緊張を激化させる<br>講師＝内田雅敏（弁護士）  |
| 6月8日(土)  | 朝鮮の真実を知ろう！——『朝鮮新報』平壤支局長が語る朝鮮半島情勢<br>講師＝金 志 永（『朝鮮新報』副局長／平壤支局長）   |
| 6月12日(水) | 中南米の左翼運動と日本での課題——メディアのウソを見抜く視点<br>講師＝富山栄子（国際交流平和フォーラム）  |
| 6月18日(火) | 壊憲NO！96条改憲反対6・18 1000人集会<br>講演＝奥平康弘（東京大学名誉教授）（HOWSも実行委に参加）  |
| 6月25日(火) | 日本の短編小説を読む 目取真俊を読む『魚群記』<br>講師＝立野正裕（明治大学教授・英文学）  |
| 6月29日(土) | 『ダクニ 2013年 キリシャ PAME（全ギリシャ闘争的労働者戦線）』（少川野シネクラブ制作・2013年）上映と討論<br>報告＝新田 進（本作品制作者）                            |
| 7月3日(水)  | 大学の非常勤講師組合の取り組み——早稲田大学刑事告発と労働契約法改正の問題点<br>報告＝松村比奈子（首都圏大学非常勤講師組合委員長）                                       |
| 7月6日(土)  | 24年間の国鉄闘争を次の闘いにどう活かすか——新刊『国鉄闘争の成果と教訓』を手掛かりに<br>報告＝唐沢武臣（国労高崎地本書記長）／新田 進（国際労働運動研究）                          |
| 7月10日(水) | 「アベノミクス」と日銀政策——破滅的経済愚策の行方<br>講師＝松沢 弘（反リストラ産経労組委員長）  |
| 7月13日(土) | B・ブレヒトの仕事から学ぶ——戦争とファシズムの時代に抗して『戦争案内』の上映と討論<br>講師＝秋葉裕一（早稲田大学教授・ブレヒト研究者）                                    |
| 7月16日(火) | 日本の短編小説を読む 目取真俊を読む『魂込め（まぶいぐみ）』<br>講師＝立野正裕（明治大学教授・英文学）   |
| 7月20日(土) | 青年の貧困と失業はなぜ広がるのか（その2）——『資本論』を手掛かりに<br>講師＝鎌倉孝夫（埼玉大学名誉教授）   |
| 7月24日(水) | 自民党改憲路線と悪法カルテットを阻止しよう——共謀罪、秘密保全法、国家安全保障基本法、国民総背番号法<br>講師＝海渡雄一（弁護士）  |
| 8月3日(土)  | 資本主義打倒を展望し、闘うギリシャの労働者階級——2013年1月訪問団の報告(画像を使って) <夏季セミナー>   |
| 8月4日(日)  | 偏見を捨て、ありのままの朝鮮を見よ！——『三千里の山河』（三一書房）を発刊して<br>講師＝李 東 埼（ジャーナリスト） <夏季セミナー>                                     |
| 8月4日(日)  | 「教えられなかった戦争・第二の侵略 — 開発・投資・派兵— フィリピン」<br>（監督：高岩 仁 2002年・80分）上映と討論 <夏季セミナー>                                 |
| 8月4日(日)  | 鶴匠はだれか？——「ミンダナオ化」に向かう震災復興（その3） <夏季セミナー>   |
| 8月4日(日)  | 「教えられなかった戦争・第二の侵略 — 開発・投資・派兵— フィリピン」<br>（監督：高岩 仁 2002年・80分）上映と討論 <夏季セミナー>                                 |
| 8月4日(日)  | 鶴匠はだれか？——「ミンダナオ化」に向かう震災復興（その3） <夏季セミナー>   |
| 8月11日(水) | 沖縄・辺野古、基地建設を巡る現段階——米軍・自衛隊・改憲（取材した写真を使って）<br>講師＝山本英夫（フォトグラファー）   |
| 8月28日(水) | 中国「社会主義」の2つの見方——資本主義支配からの脱出路を求めて<br>講師＝山下勇男（社会主義理論研究）   |
| 8月31日(土) | 新聞労働の現場から見た日本とメディアの今——新旧・新聞労連委員長対談<br>対談＝日比野敏陽（新聞労連委員長・京都新聞記者）／東海林 智（新聞労連前委員長・毎日新聞記者）<br>進行＝山口正紀（ジャーナリスト） |
| 9月7日(土)  | “社会主義チリ”への偉大な実験「チリ人民連合」——その政治と文化のたたかい<br>映画『サンチャゴに雨が降る』／You Tube「アジェンデ最後の演説」（7分）上映と討論<br>講師＝井野茂雄（文化活動家）   |
| 9月14日(土) | 職場闘争の現実と運動の方向性を議論する——若手労働運動活動家の報告と討論<br>報告＝須田光照（東京東部労組書記長）／内田 浩（出版労連書記次長）／藤原 晃（神奈川高教組）                    |
| 9月17日(火) | 日本の短編小説を読む 目取真俊を読む「水滴」<br>講師＝立野正裕（明治大学教授・英文学）   |
| 9月21日(土) | 福島第一原発事故から2年半——避難生活者の現状と真実の声をさく<br>講師＝國分富夫（東日本大震災で被災、南相馬からの原発避難者）   |
| 9月25日(水) | 郵政職場からの報告——現場の運動体づくりの途上にて<br>報告＝土田宏樹（JP労組）／丸山こじり（郵政有期雇用労働者）   |
| 9月28日(土) | 安倍政権の差別と排外の思想——日本軍「慰安婦」問題を中心に<br>講師＝中原道子（VAWW-RAC共同代表）  |

《2013年度前期募集要項》

- 定員 本科生40名（4月22日(月)より募集）
- 全講座34回（各週1～2回程度）
- 本科生は、すべての講座を受講できます。その他、交流を深めつつ数講座を集中して学ぶ夏季合宿（前期）や、懇親会などの企画があります。
- ◎聴講生20名  
シリーズを問わず、自由に講座が選べる12枚綴りの聴講チケットがあります。
- 費用
- ◎本科生 入学金…1万円（次期以降は不要）  
受講料…前期：3万円、後期：3万円  
・前期5月、後期11月の開講時までにそれぞれ納入してください。
- ◎聴講生 聴講料 回券…15,000円  
・聴講料納入と引き換えに12枚綴りの聴講チケットをお渡しします。  
・1回の受講料は本科より割高ですが、一般受講より割安になります。  
・2013年度前期の聴講チケットは、後期にも使用できます。
- ◎一般 受講料…1,500円（各講座1回につき）  
・本科生・聴講生以外の一般参加は、受付で現金にていただけます。
- 申込方法  
・所定の申込用紙に必要事項を記入のうえ、入学金・受講料を添えて、直接事務局に持参、または現金書留にて郵送してください。郵便振替ご利用の際は、申込用紙を別途郵送または事務局にお持ちください。
- 注意事項  
・HOWSゼミナールについては、会計が異なります。  
・講師の急病等やむを得ない事情により、日程・テーマ・講師等が変更になる場合があります。